

兵庫県大学図書館協議会研究会 2009.2.17.

教育の質的保証を目指す 取り組みと大学図書館の可能性

三重大学 高等教育創造開発センター
長澤 多代

本日の発表内容

1. **大学における教育の質的保証**
三つの方針, 単位制度の実質化
2. **図書館の利用を組み入れた授業**
初年次教育, 能動的学習,
情報活用プロセス, 学習ポートフォリオ
3. **大学図書館が実施する教育支援**
ファカルティ・ディベロップメント,
授業デザイン, シラバス, パス・ファインダー

1. 大学における教育の質的保証

教育改革が必要になった背景

- ・知識基盤社会の到来

「21世紀型市民」の育成

- ・学習成果を重視する国際的な動向

何を教えたか 学生が何を修得したか

- ・18歳人口の急激な減少

基礎的な学力の低下, 学習意欲の低下

- ・大学数の増加

大学の生き残り, 各大学の特色を生かした教育

1. 大学における教育の質的保証

「三つの方針」の明示

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー, DP)

教育課程編成・実施の方針

(カリキュラム・ポリシー, CP)

入学者受け入れの方針

(アドミッション・ポリシー, AP)

外部評価への対応, 説明責任への対応

[山口大学](#), [三重大学](#)

1. 大学における教育の質的保証

単位制度の趣旨

「学生がいかなる授業科目を選択しようとも、授業時間数を基礎に算出した単位数が同じであれば、学習内容・成果も同程度に評価する」

1単位 = 標準45時間の教室内外の学習を要する
教育内容

1単位あたりの教室内の学習時間

講義・演習	15～30時間の範囲
実験・実技・実習等	30～45時間の範囲

1. 大学における教育の質的保証

1単位は と の合計で標準45時間の学修を要する学習内容

教員が教室等で授業を行う時間

学生が事前・事後に教室外において

準備学習・復習を行う時間

1単位 = 標準45時間の根拠

8時間×5日（月～金曜日） + 5時間（土曜日）

→45時間 = 1週間の学習時間に相当

1. 大学における教育の質的保証

単位制度の実質化

= 教育方法の改善にとって重要な課題

「現在の単位制度は、教室における授業と事前・事後の準備学習・復習を合わせて単位を授与するものであり、学生の自主的な学習が求められる。このため、**教室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおくべき文献を指示するなど学生が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えることが教員の務めである。**」（大学審議会答申，1998）

1. 大学における教育の質的保証

文部省の調査（1995年）
1週間の学習時間

	授業への 出席時間	その他の 学習時間	合計
全体	19.3時間	7.2時間	26.5時間
自然科学系	22.3時間	7.9時間	30.2時間
社会科学系	15.8時間	6.0時間	21.8時間

内閣府の調査（2001年）

「普段、学校以外で1日に何時間勉強しているか」

ほとんどしていない(47.5%)

約30分(12.2%)，約1時間(19.3%)

1. 大学における教育の質的保証

総務省の調査(2006年)

1日あたりの平均学習時間(土日を含む, 平日のみ)

	小学校	中学校	高校	短大・高専	大学・大学院
学業の時間 + 学業以外の学修時間	5時間 17分	6時間 30分	6時間 23分	4時間 59分	4時間 4分
	6時間 55分	8時間 4分	7時間 42分	6時間 14分	5時間 1分
うち, 学業の時間	4時間 41分	5時間 35分	5時間 27分	4時間 27分	3時間 30分
	6時間 19分	7時間 10分	6時間 45分	5時間 41分	4時間 28分

1. 大学における教育の質的保証

単位を実質化させるために

大学教員の役割

- ・授業外学習(予習, 復習, 課題)について,
シラバスによって十分な指示を与える
- ・授業外学習を促すような授業方法を導入する。

大学の役割

- ・履修制度の上限を設定する(キャップ制)
- ・成績評価を厳格化する e.g. GPA
- ・授業外の学習環境(図書館などの物理的・人的支援環境, eラーニングなどの仮想的支援環境等)を整備する

1. 大学における教育の質的保証

大学図書館の可能性

学習成果の向上

初年次教育科目における図書館ガイダンス
指定図書, 図書探索クイズ
科目関連の情報利用指導などの学習支援

授業外(教室外)学習のための環境の整備
ラーニング・コモンズ

FD等による教員への支援

新任教員オリエンテーション, ワークショップ
などの教育支援

SDによる専門性の向上

求められる専門能力の検討と資質開発

2. 図書館の利用を組み入れた授業

初年次セミナーにおける図書館ガイダンス

初年次教育

= 多様化した学生をスムーズに高校から大学へ移行させる教育(1年次生を対象)*

初年次セミナーの主な内容* *

大学生生活の過ごし方, 時間の管理法,
図書館の利用法,
学習のスキル:

インタビューの仕方, テキストの読み方,
ノートの取り方, 要約の仕方, レポートの書き方

2.図書館の利用を組み入れた授業

「基礎ゼミ」法政大学文学部(藤田哲也先生)

第6講「図書館の利用:図書館探索と資料の検索」

前半:情報検索演習(図書館内のコンピュータ室)

OPACを用いた図書の検索(AND検索)

新聞データベースの検索方法

後半:図書館ツアー(図書館)

開架と閉架の違い

請求記号に基づいた図書の探索法

貴重書

2. 図書館の利用を組み入れた授業

アクティブ・ラーニングを組み入れた授業における
学習支援

指定図書，図書探索クイズ
科目関連の情報利用指導

アクティブ・ラーニング

= 学習者の能動的な学習への参加を取り入れ

た教授・学習法の総称。
発見学習，問題解決学習，経験学習，
調査学習など。

2. 図書館の利用を組み入れた授業

「国際社会を考える」弘前大学21世紀教育

(土持ゲーリー法一先生)

- ・ **問題解決型の課題中心のアクティブ・ラーニング**
- ・ 指定図書課題 + カウンターにおける「図書館印」
- ・ 図書探索クイズ: 論文 (not 図書) の探索
- ・ 出典の書き方
- ・ **学習ポートフォリオ**
各回の指定図書課題 + 講義ノートを綴じる
到達目標の達成を省察的記述により自己評価
教員が各回の自己評価にフィードバック

2.図書館の利用を組み入れた授業

アールラム・カレッジ (Earlham College, 米国)

- ・ **問題解決型の課題**: レポート, グループ研究
- ・ 科目関連の情報利用指導
- ・ 科目の個別性に対応
 - 課題のテーマを探索するための具体的な方法
- ・ **教える好機** (teachable moment) における実施
 - 学生に課題のテーマを与えられた直後
- ・ 教員との事前相談
 - 実施日 + 課題のテーマの検討

3. 大学図書館が実施する教育支援

教育支援の目標

教員が、

- ・大学図書館の学習・教育支援機能について理解を深める。
- ・図書館が実施している学習支援の存在を知る。
- ・図書館の利用方法や効果的な情報探索法について理解を深める。

教育支援の実施の根拠：

ファカルティ・ディベロップメント(FD)の義務化

大学院教育 2007年度より

学士課程教育 2008年度より

3. 大学図書館が実施する教育支援

教員の図書館観

- ・ 図書館員 = 事務員 (not 専門職員)
- ・ 図書館 = 研究支援機関
(not 学習・教育支援の機関)
- ・ 図書館 = 本がある場所 (not データベース)

教育支援の主な方法

- ・ 図書館サービス案内状
- ・ 教育改善ワークショップ
- ・ 新任教員オリエンテーション
- ・ FDワークショップ

2. 大学図書館が実施する教育支援

アールム・カレッジ

新任教員への図書館サービス案内状の送付

内容	<p>着任が決まった教員に図書館のサービスを紹介した手紙を送付する</p> <ul style="list-style-type: none">・授業で必要な文献があればいつでも購入できることを伝える・図書館がいつでも支援できることを伝える
目的	<p>教員が「必要なときには、いつでも図書館の支援を受けられる」ことを理解する</p>

2. 大学図書館が実施する教育支援

アラム・カレッジ

教育改善ワークショップ

内容	<p>問題解決型の課題やその指導法について教員と図書館員と一緒に検討する</p> <ul style="list-style-type: none">・効果的な問題解決型の課題を設定する方法を説明する・剽窃の問題について説明する
目的	<ul style="list-style-type: none">・教員が情報資源や課題の設定について理解を深める・教員と図書館員，教員間の情報交換の場をつくる

2. 大学図書館が実施する教育支援

長崎大学

新任教員ガイダンス

- ・人事課が実施する新任教員ガイダンスの一部として「図書館の利用法」を説明(15分)

授業実践FD

- ・大学の教育目標, 授業デザインの方法に関する内容の一部として「学生の問題解決力の育成と情報の利用」を説明する中で, 図書館が実施する学習・教育支援を紹介(約10分)

2. 大学図書館が実施する教育支援

長崎大学

FDサマー・ワークショップ

- 教育改善に関する多様なワークショップを提供
- 学内の教職員が講師を担当
- 少人数形式のワークショップを通して、講師と参加者が双方向の意見交換

授業計画・実践に関する知識やスキルの習得
教職員間のネットワークづくり

2. 大学図書館が 実施する教育支援

長崎大学

FDワークショップの風景



フィールドワークにおける観察
とインタビューの方法



マインドマップをつかった情報の整理



パスファインダーの作成法

2. 大学図書館が実施する教育支援

長崎大学

FDサマー・ワークショップ

「パスファインダーの作成法」

- 講師：2～4名の図書館員（補助を含む）
- 目的：教員が、学生の情報収集を支援するツールとしてパスファインダーの存在を知る
- 目的：パスファインダーの役割や構成と情報検索ツールについて理解を深める
- 目的：教員と図書館員が顔を合わせる機会を設ける

2. 大学図書館が実施する教育支援

長崎大学

「パスファインダーの作成法」の全体

講義：パスファインダーの説明 20分

講義：各種データベースの説明 40分

休憩 10分

演習：パスファインダーの作成 50分

予めパスファインダーの[フォーマット](#)を配布
教員がこのフォーマットに情報を入れ込む

3. 大学図書館が実施する教育支援

ファカルティ・ディベロップメントの枠組み (FDマップ)

レベル	ミクロ	ミドル カリキュラム 設計者	マクロ
フェーズ	教員		大学執行部
導入			
基本			
応用			
支援			

3. 大学図書館が実施する教育支援

教育の質的保証の文脈の中で、附属図書館が貢献できることを伝える。

大学教育センター、FD委員会、人事課などに教育支援の共同開催を提案する

教育改善に関心の高い教員に個別に案内する。

個々の図書館員が、大学図書館と他の大学関係者を結びつける窓口となる。

× 説明のしすぎ、× 面倒くさいという印象

「ソフトに」「繰り返し」アプローチする

本日に発表した内容

1. 大学における教育の質的保証

三つの方針, 単位制度の実質化

2. 図書館と連携した授業

初年次教育, 能動的学習,

情報活用プロセス, 学習ポートフォリオ

3. 大学図書館が実施する教育支援

ファカルティ・ディベロップメント,

授業デザイン, シラバス, パス・ファインダー

まとめ:教育の質的保証

大学図書館の可能性

学習成果の向上

初年次教育科目における図書館ガイダンス
学科関連の情報利用指導などの学習支援

授業外(教室外)学習のための環境整備

ラーニング・コモンズ

FD等による教員への支援

FDワークショップなどの教育支援

SDによる専門性の向上

求められる専門能力の検討と資質開発

付録：図書館員に求められる専門能力

ブレンディッド・ライブラリアン (blended librarian)

伝統的な図書館と情報技術の技能，授業設計や教育工学の知識，指導のための諸資源とその開発や普及の動向に関する知識を兼ね備えた大学図書館員

〔2004年にSteven BellとJohn Shankが提唱〕

付録：図書館員に求められる専門能力

ブレンディッド・ライブラリアンの役割

- 1) 大学改革の主導的な地位につく。
- 2) 大学規模の情報リテラシー戦略の開発に関わる。
- 3) 図書館サービスの利用や情報リテラシーの学習を組み入れた教育プログラムを設計する。
- 4) 教育工学の専門家やeラーニング・コンテンツ開発の専門家と協働する。

(続く)

付録：図書館員に求められる専門能力

ブレンディッド・ライブラリアンの役割（続き）

- 5) 教育工学やeラーニング・コンテンツの開発を担当する図書館員，eラーニング・コンテンツ開発の専門家，教育工学の専門家が協力して，従来の利用教育を改善する。
- 6) 教員がテクノロジーや図書館の情報資源を科目に組み入れるように支援する。また，情報へのアクセス，情報検索，情報の整理の点から学生の学習とその成果を向上させるために，教員と協力する。

付録：図書館員に求められる専門能力

公募要領が求める専門能力(分析対象10件)

- Web / マルチメディア利用の技術(9件)
- コミュニケーション / 対人関係の技術(8件)
- 情報の組織化の技術(6件)
- 指導用技術のスキル / 経験(6件)
- プロジェクトを管理する技術 / 経験(6件)
- 指導の方法論(4件)
- 大学図書館もしくは指導用設計・技術関係の仕事に従事した2年の経験(4件)
- 大学図書館員の知識 / 経験(3件)
- オンライン / Web上の資源 / ツールの開発(3件)
- 指導デザインの技術(3件)

参考文献

- 中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』
(答申) 2008.12.24.
- 藤田哲也(法政大学)「初年次教育モデル授業公開」
<http://fd.cms.k.hosei.ac.jp/index.html>
- 金丸明彦・下田研一・長澤多代「長崎大学におけるファカルティ・ディベロップメント・プログラム:その概要ならびに大学教育機能開発センターと附属図書館が協同した「情報検索の方法」ワークショップ」『大学図書館研究』No.69, 2003.12, p.1-14
- 長崎大学附属図書館:FDワークショップ
<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/use/guidance/fd.html>

参考文献

- 長澤多代「アールム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」〔短報〕『Library and Information Science』 No.57, 2007, p.33-50.
- 長澤多代「大学図書館の教員へのアプローチ：長崎大学ファカルティ・ディベロップメントの試み」『平成18年度第92回岡山大会 全国図書館大会記録』p.85-86.
- 長澤多代「情報リテラシー教育を担当する図書館員に求められる専門能力の一考察：米国のウエイン州立大学の図書館情報学プログラムが開講する「図書館員のための教育方法論」の例をもとに」『大学図書館研究』 No.80, 2007.8 p.79-91.

参考文献

- 土持ゲーリー法一「FD研修で単位制度の実質化」京都大学高等教育研究開発推進センター第79回公開研究会・配布資料，2008.11.15，21p.
- 土持ゲーリー法一『ティーチング・ポートフォリオ：授業改善の秘訣』東信堂，2007，201p.
- 山田礼子『一年次(導入)教育の日米比較』東信堂，2005，250p.

参考文献：付録部分

- Bell, Steven J.; Shank, John. "The Blended Librarian: A Blueprint for Redefining the Teaching and Learning Role of Academic Librarians," *College and Research Libraries News*, 2004.7/8, p.374.
- Bell, Steven; Shank, John. *Academic Librarianship by Design : A Blended Librarian's Guide to the Tools and Techniques*. ALA, 2007, 181p.
- Shank, John D. "The Blended Librarian: A Job Announcement Analysis of the Newly Emerging Position of Instructional Design Librarian," *College and Research Libraries*, Vol.67, No.6, 2006.11, p.515-524.

連絡先

長澤 多代 (NAGASAWA Tayo)

〒514-8507

三重県津市栗真町屋町1577

三重大学 高等教育創造開発センター
教育開発部門

TEL (059)231-5621

FAX (059)231-5597(共用)

E-mail nagasawa@hedc.mie-u.ac.jp

URL <http://www.hedc.mie-u.ac.jp/nagasawa/>